



特別支援学校における 学校運営協議会の取組

～こんないいことありました！～

*平成17年6月11日設置（当時の養護学校で全国初）

京都市立西総合支援学校

京都市の特別支援学校

(7校全てにCS設置)

西総合支援学校

右京区・西京区・
南区の一部の43
小学校区が通学圏



京都市立西総合支援学校

教育目標

「できる」自分を知り，夢や希望を持って，
自ら，ひと・もの・ことに向かう子どもを育てる

- 児童生徒は「できる」状況や手だてがあれば「できる」存在である
- 児童生徒を地域に生きる一人の生活者としてとらえ，学校だけで完結しない取組を推進



昭和61年開校

児童生徒数：198名

(小：60名 中：47名 高：91名)

本校の学校運営協議会について 1

ローカルコミュニティ＜2つの地域＞

学校のある地域（桂坂小学校区）

子どもたちが暮らしている地域（43小学校区）



テーマコミュニティを展開

「双方向の援助」

～新しい地域の創造～

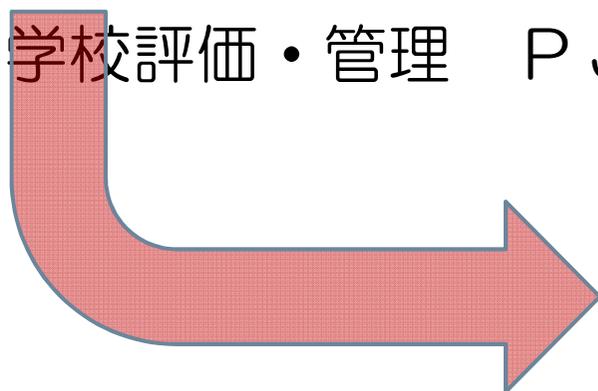
本校の学校運営協議会について 2

3つのプロジェクト

▲キャリアアップ支援 PJ

●地域とともに PJ

◆学校評価・管理 PJ



居住地域で

- わくわくクラブの運営
- 光華子ども遊び隊への協力
- にこにこクラブの運営

学校で

- 校区地域交流会の運営
- サマースクールの運営
- 芝生まつりの運営
- 啓発リーフレットの作成
- ボランティア養成講座

わくわくクラブ

居住地域で

障害のある子どもの放課後の居場所づくり

居住地域の小学校のランチルームや教室を借りて、本校の保護者やボランティアさんたちと活動しています。



毎年、お習字や絵画等の作品展示会を区役所のロビーで開催しています。

今年度は、2つの小学校で活動中です。

は・・・



平成25年4月8日 発行

光華子ども遊び隊 居住地域で



- 光華女子大学の地域貢献の取組の一環

大学のキャンパスで活動 月1回程度 指導者は学生



にこにこクラブ

居住地域で

障害のある子どもの放課後の居場所づくり

京都市桂川療護園（総合福祉施設）の一室で、療護園と本校の指導者やボランティアさん、そして療護園の利用者の方たちと活動しています。

- 年間8回
- 桂川中学校区に在住する児童生徒が参加



校区地域交流会

学校で

校区の小学校・中学校・高校のPTA本部役員，育成学級（特別支援学級）の保護者が集い，本校PTA本部役員と，子育てや障害についての意見交換等をして，交流を深めています。

平成25年度は，43名の参加

<内容>

- 学校見学
- ミニセミナー（ペアレント・トレーニング）
- 意見交換



芝生まつり

学校で

本校の芝生グラウンドが、地域の障害のある人のスポーツの拠点となることを願い、7年前から実施しています。

<主な内容>

各種遊びコーナー（パラバルーン・ペットボトルロケット e t c）

福祉施設等合同説明コーナー（ブースごとの説明，製品販売）



成果1 学校にとって

今年度の熟議より

- 地域に開かれた学校になった。
- 特別支援学校のことを地域に知ってもらうことで地域が学習の場となった。
- 特別支援学校の枠を越え、就学前施設、小学校、中学校、高等学校、大学とつながることができた。

成果2 保護者にとって

今年度の熟議より

- P T Aと学校との一対一の関係だけでなく，地域の方や学識者，福祉関係者にも相談できる場があり，自分たちの**応援団**ができたようで心強い。
- 子どもたちの居住地で障害のことや学校のことを**発信**しやすくなった。
- **保護者**自身が，**地域**で障害のある子どもたちへの支援者となることができた。

成果3 地域にとって

今年度の熟議より

- 特別支援学校に行く機会ができ、子どもと触れ合うことができた。
- 学校の教育方針や取組がよくわかり、ボランティアとして協力しやすくなった。
- 西総合支援学校のスクールバスが走っているのを見かけると、応援したくなる。

成果4 子どもにとって

今年度の熟議より

- 様々な方に来校していただき、挨拶したり認め
てもらえる機会が増え、子どもたちの励みにな
っている。
- 学校行事で地域の方に協力していただくことが
でき、子どもの活動が広がった。
- 子どもたちの障害を理解していただき、住みや
すい地域づくりの着実な第一歩となっている。

7 / 8



こんないいことありました！の
ひろがりを願っています。

ご清聴, ありがとうございました。